



幌延町立診療所

ている。診療所への繰入が1億9千9百万、こざくら荘にも3千万近くにもなっているが、これからの方向についてどう考えているのか。

岩川副町長 診療所会計の赤字額は年々増加している。心療内科も新たに設けられ、医師の交代もあり、田川医師の評判も良いので、外来の収入も伸びてきている。収入増に向けてもう少し時間がほしい。

地域の課題をとらえて

5氏が一般質問



西澤 裕之
・災害対策と地域防災計画について

質問 今回のような災害時には、役場ロビーにテレビを視聴できる環境と、ホワイトボード等を使用し、情報を掲示する、「(仮称)災害情報センター」を設置する考えはないのか。

町長 停電時役場内でもテレビを見ることはできず、情報収集はインターネット通信等で行っていた。これは、非常用電源により機能する部分が限られた一部であったため、今後改善していかなければならない。情報収集するための総合的な場所も必要だという意見もあり、そのあり方を考えていかなければならないと感じている。

質問 停電時、IP告知端末機は使用できないため、防災無線があったのではないか。上手く機能していなかったと思うが。

町長 IP告知端末機については、更新時期を迎え、機種の変更を協議している。その中で、停電時でも使用できるものがあると確認できており、今後停電時でも利用できるかと思う。

防災無線の中継塔は、停電時は蓄電池で動いている。寿命は7〜8時間で、それを過ぎてしまい、鮮明に伝えることができなかつた。災害時の情報伝達について

では、複数の系統から情報が入る形を取らなければならないと反省している。

質問 今回の経験から、今後が必要だと考えるか。

町長 役場や各公共施設のホームページ、各種ネットワーク機器を動かすための電源確保と、情報発信及び周知の方法について検討する必要があると考えている。

また、備蓄品は計画どおり購入しているが、食料品や照明器具、発電機、暖房機などの充実や町民の防災意識の向上、防災訓練の実施、町内外関係機関や協定を結んでいる会社との協力、連携などについて必要であると考えている。